今週の為替相場見通し（2021年3月1日）

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	（円）		104.92 ～ 106.69	106.54	105.50 ～ 107.50
ユーロ	（ドル）		1.2063 ～ 1.2243	1.2070	1.2000 ～ 1.2200
（1ユーロ=）	（円）		127.52 ～ 129.94	128.63	127.50 ～ 130.00
英ポンド	（ドル）		1.3890 ～ 1.4240	1.3923	1.3800 ～ 1.4050
（1英ポンド=）	（円）	*	147.41 ～ 150.45	148.40	146.50 ～ 149.50
豪ドル	（ドル）		0.7693 ～ 0.8007	0.7708	0.7550 ～ 0.7850
（1豪ドル=）	（円）	*	81.99 ～ 84.95	82.13	80.50 ～ 83.50

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

金融市場部　グローバルFIチーム　内山 裕子

（1）今週の予想レンジ：　105.50 ～ 107.50 円

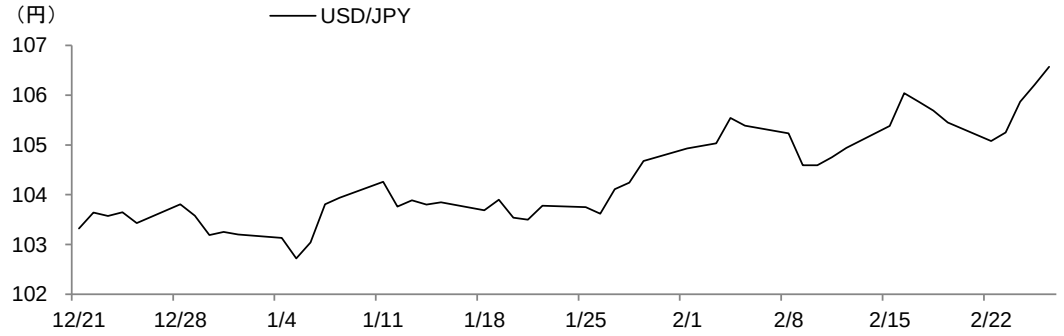
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週前半に105円を割れ104.92円まで下落するもその後は上昇し、一時昨年8月26日以来となる106.69円まで高騰。週初22日に105円台半ばでオープンしたドル/円は106円手前で伸び悩むと反落。米長期金利の動向を睨み神経質な展開。本邦休日の23日は一時、104.92円まで下げ幅を広げるもパウエルFRB議長の議会証言への警戒感から105円台前半まで持ち直し、日足では5日ぶりに陽線で引けた。24日は米長期金利が1.4%まで上昇したことでドル/円は106円台まで急進。25日は米10年債利回りが1.614%まで上昇したことを受け、ドル/円も上昇する展開。FRBがテーパリングは当面開始しないとの立場を強調するも、Fed高官がこの状況を静観したことも金利上昇に繋がった。26日は米10年債利回りが時間外に1.44%まで低下すると106円を割り込んだものの、米金利の下げ止まりを受け下げ幅縮小。東京時間は月末フローに振らされる場面も見られたが、ロンドン時間にはグローバルなドル買いを背景にドル/円も上昇。米10年債利回りが再び1.5%台を回復するとドル買いが進行し、約半年ぶりの高値を更新した。買い一巡後は週末、月末で積極的な取引手控えられ106円台半ばでの小動きで越週した。

今週のドル/円相場は米金利の動きを睨みながらの展開か。パウエル議長を始め相次ぐ米高官の発言に金利上昇に対しての警戒や介入を示唆するものがあるかどうかが注目される。また、中国の景気動向や株、商品市場といった他資産の動向にも警戒感が広がっていることも念頭に置きたい。週後半の米2月雇用統計を控え前週ほどの勢いには及ばず調整局面を想定する。テクニカルには200日移動平均（26日:105.78円）をしっかり上抜け、週で見ても高値を切り上げており、上昇トレンド入りとの見方もできるが、注目度の高いイベントの多い週となり、経済指標の結果や要人発言が上昇の勢いに歯止めをかける可能性も大きい。1日（月）は米2月ISM製造業景況指数、4日（木）OPEC閣僚級会合、中国の全人代開幕、5日（金）米2月雇用統計が控えている。事前予想は強い内容となっている米経済指標だが、各国の財政出動規模の拡大とワクチン接種が進行する中、経済の正常化には金融緩和、経済対策は急に止められないというジレンマの中で106円台を維持できるかがポイントとなりそうだ。

（3）先週までの相場の推移

先週（2/22～2/26）の値動き：　安値 104.92 円　高値 106.69 円　終値 106.54 円



（資料）ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部　営業第二チーム　大谷 未央

(1)今週の予想レンジ:　1.2000　～ 1.2200　　127.50　～ 130.00　円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

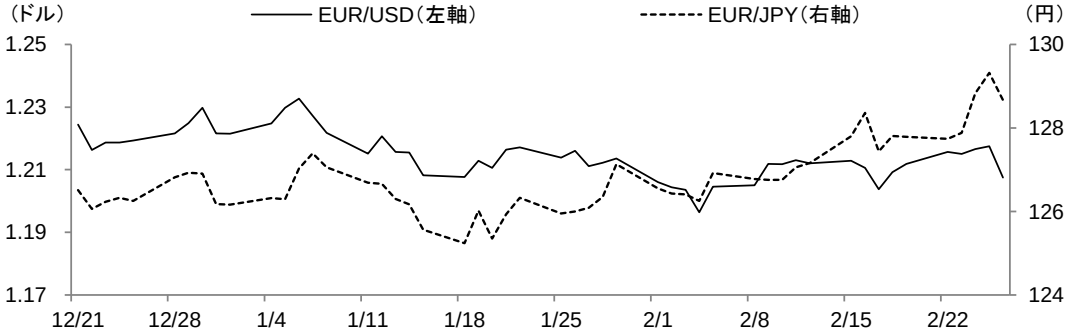
先週のユーロ/ドル相場は上に往って来いの展開。週初22日に1.21台前半でオープンしたユーロ/ドルは、米金利上昇を受けたドル買いに1.20台後半まで下落したが、独2月IFO景況指数が市場予想を上回る結果となったことや、米金利低下によるドル売りにより1.21台後半まで上昇した。翌23日は、米株安を受けたユーロ/円の売りに1.21台前半まで下落。その後パウエルFRB議長の議会証言を受けたドル売りにユーロ/ドルは1.21台後半まで値を戻した。24日は、米金利上昇によるドル買いの動きにユーロ/ドルは1.21台前半まで下落。その後は、米株価がプラス圏に浮上し、リスク選好ムードが強まったことや、米金利上昇一服がドル売り材料として意識されたことで、ユーロ/ドルは1.21台後半まで上昇した。25日は、欧州株が堅調に推移する中リスクオンのドル売りが強まり、週高値である1.2243をつけたが、その後は米金利の急上昇を受けてドル買いが強まり1.21台後半まで下落した。26日は、米金利が高値圏で推移する中、ドル買い優勢な展開が続き、ユーロ/ドルは一時週安値である1.2063をつけ、1.20台後半で越週した。

今週のユーロ/ドルは、上値重い推移を予想する。今週は米国、ユーロ圏で相次いで指標が発表されるが、やはり注目は米金利の動向となるだろう。これまで多くの市場参加者が当面の米10年債利回りの上限を1.5%として意識していたが、先週予想外に1.5%を大幅に超える展開となった。金利の上昇に株価も耐え切れず調整しているが、FRB高官によるけん制発言等もない中で、引き続き米金利は高値圏で推移すると考え、今週のユーロ/ドルは上値重い推移を予想する。加えてかねてよりユーロ高牽制発言がECB高官から相次ぎ、追加緩和について言及があった点は改めて意識しておきたい。前回ユーロ/ドルの1.20割れはすぐに切り返したものの、今回、1.20が割れる場面がれば下落トレンド入りする可能性もあると考える。また、ユーロ円については130円を目前に株安で上値が重くなっており、売り場にも見える点に留意し、基本的にはユーロ安展開を予想したい。重要指標としては、3月1日(月)にユーロ圏2月製造業PMI(確報)、2日(火)にユーロ圏2月CPI(速報)、3日(水)にユーロ圏2月サービス業PMI(確報)、4日(木)にユーロ圏1月失業率の発表を予定している。

(3)先週までの相場の推移

先週(2/22～2/26)の値動き:

(対ドル)	安値 1.2063	高値 1.2243	終値 1.2070
(対円)	安値 127.52	高値 129.94	終値 128.63



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1)今週の予想レンジ: 1.3800 ～ 1.4050 146.50 ～ 149.50 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

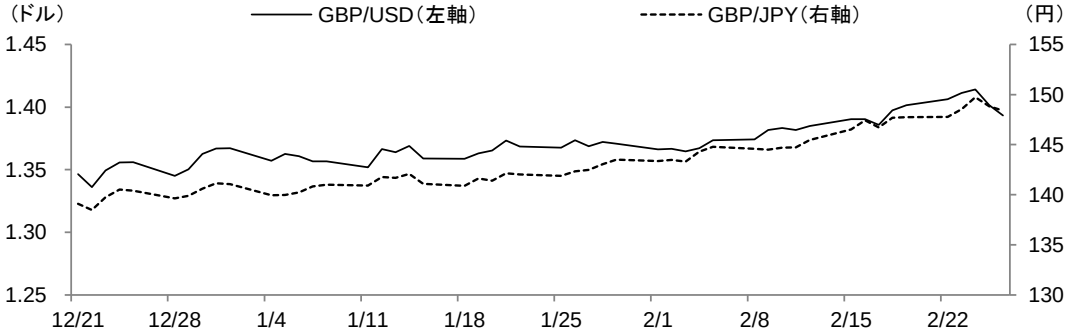
先週の英ポンド相場は、続騰後、急反落。週を振り返って、対ドル、対ユーロでは、小幅下落に終わったが、対円では小幅水準を切り上げた。この間のポンドの値動きは、各国の長期金利の動きを色濃く反映していた。米バイデン政権による積極的な財政出動、新型コロナウイルスに対する世界的なワクチン接種の拡がりなどに期待して、折から、米長期金利は「リフレ取引」などと呼ばれる鮮明な上昇基調(国債価格は下落)を確立していたが、2月4日(英中銀金融政策委員会のあった日)を契機に、英国債利回りは米国債のそれ以上に上昇していた。1月末に75bp前後であった米英利回り格差(10年物国債)は、以降、断続的に縮小、先週に入ってもう一段の縮小を見せ、24日までに60bp強にまで落ち込んでいた。これは、同日、ポンドが対ドルで1.4240と18年4月来34か月ぶりの高値をもう一段更新する値動きと符号した。並行して、ポンドは対ユーロでも0.8540と1年ぶりの高値を更新したが、対円ではその後も続伸を続け、18年5月来33か月ぶりとなる150.45の高値をつけたのは翌25日だった。並行して円が対ドルで106円を明確に割り込む下落を見せたからだ。ドルの対円での上昇も、やはり長期金利格差で説明することができただろう(日本の長期金利は、上がっても下がってもせいぜい数bpしか動かないため、米金利が上がれば利回り格差は広がり、米金利が下がれば縮む構造にある)。週引けにかけてのポンド急反落は、対ドルで1.40、対ユーロで0.87といった節目の水準に続き、対円でも150円を引っ掛けた達成感からの調整安の側面が強かったのではないか。並行して、米英長期金利格差も、週引けにむけては調整的な拡大を見せた。

今週の英ポンド相場は、今暫くの調整安継続を予想。上述の通り、ポンドは、対ドル、対ユーロ、対円と、心理的節目となる水準を次々と上抜けた。だからどうと言うわけでもないが、目先はポンド売り材料に飛びつき易い地合が強まるのではなかろうか。米英国債利回り格差(10年物)は、上述の通り、60bp近くまで縮小し、これがこの間のポンド上昇の屋台骨になったが、利回り格差60bpというのは、実は、昨年12月初旬来たかだか3か月弱ぶりのこと。当時のポンドは対ドルで1.34前後の水準で、ポンドが対ドルや対円で30か月超ぶりの高値を更新したのとは必ずしも平仄が合わない。この差は、おそらく、英のEU離脱(移行期間終了)の悪影響が、警戒したほど具現化していない事実によるものと思われるが、この点、コロナ禍の影響による(対EU)通商の停滞が状況の可視化を先延ばしにしているに過ぎない。今週の注目要因には、まず、3日(水)の英予算発表が挙げられるが、賃金補償の延長(4月末→6月末)、将来的な財政引き締めの示唆(法人税率引き上げなど)といった内容が既に相応に織り込みが進んでおり、ポンドに影響するような意外感のある内容は想定し難い。5日(金)の米雇用統計も、米、及び主要国の長期金利動向に与える影響という目線で注目が必要だろう。もうひとつ、注目しておきたいのは、今月から始まる予定の英とEUの金融規制交渉。英金融当局(主に英中銀)は、「EUの姿勢は不条理」などとこぼしながらも、同等性評価を得るために何もかもEU側の規制に合わせるつもりはないようだ。むしろ、英がEU側に同等性評価を「与えてやっても良い」ぐらいの姿勢と見える。その自信は結構なことかもしれないが、EUはEUで、ユーロ誕生のおかげで皮肉にも出来したロンドンの金融寡占から、99年以前のような金融産業の雇用と税収とを少しでも取り返したいと望むのは自然な成り行きで、調整が平行線に終わる可能性は高い。そのことで、少なからずロンドンの地位を脅かし、ポンドの重石になる可能性が警戒されるのではなかろうか。

(3)先週までの相場の推移

先週(2/22～2/26)の値動き:

(対ドル)	安値 1.3890	高値 1.4240	終値 1.3923
(対円)	安値 147.41	高値 150.45	終値 148.40



(資料)ブルームバーグ

4．豪ドル

市場営業部　営業第二チーム　玉井 美季子

(1)今週の予想レンジ:　0.7550　～ 0.7850　　80.50　～　83.50　円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

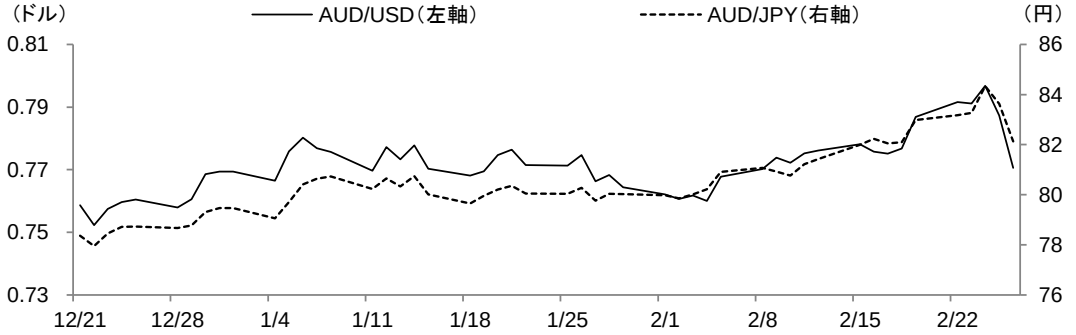
先週の豪ドルは往って来いの展開。週初22日、0.78台後半でスタートした豪ドルは、米金利の上昇を背景にシドニー時間昼過ぎに豪10年債利回りが一段高となり、ストップを巻き込みながら0.79台へ突入。その後豪ドルは一旦0.78後半へ値を戻すも、NY時間に米株が堅調に推移すると再度0.7930手前まで上昇した。23日、東京時間では前日のリスクオンの流れが継続し、2018年以来の高値を更新したもののNY時間にドルが小幅に上昇した事を背景に豪ドルは下落に転じ0.78後半まで下落した。パウエルFRB議長は議会証言で経済見通しについて「一段の進展にはしばらく時間がかかる」との認識を示した。また、緩和的な金融政策がインフレ高を招くとの見方を否定し、景気支援策継続が引き続き必要と強調した。これらの証言を受けて米10年債利回りが1.34%へ下げると、再度ドル売りとなり、豪ドルは0.7920手前まで戻した。24日、NZ中銀の金融政策理事会合は政策金利据え置きとなり、マイナス金利に言及があったことで当初NZD売りとなったが、特段のNZD高牽制が聞かれなかったこと等を受けてNZD買いに転じた。AUDも連れ高となり0.79半ば手前まで上昇。その後NY時間にかけて米債利回りが上昇したことでドル買いとなり、豪ドルはやや軟調に推移した。25日鉄鉱石価格の上昇などに上昇をサポートされ、0.79半ばから0.79後半へ上昇。ロンドン時間にはリスク選好の動きからドル売りも手伝って週高値となる0.8007まで上昇。0.80台達成後は利益確定などのオファーが相次ぎNY入りにかけては比較的早いスピードで0.79前半まで下落。その後も米10年債金利が1.6%台に跳ねた場面ではドル買いを背景に豪ドルは0.78台後半へと更に値を落とした。26日は前日の株安の流れを受けて売りが先行。RBAが先週3回目となる3年国債の買い入れ実施を発表すると豪ドルは更に売りで反応し、0.78台前半まで下落した。欧米時間に入り米長期金利が再び1.5%台乗せを試す動きに米ドル買いが進行すると、豪ドルは一段と売り進まれ2月以来の安値0.7693を付けた。その後若干買い戻され0.77台まで戻して越週した。

今週の豪ドルは軟調推移を予想する。先週の豪ドルは約3年ぶりの高値となる0.8台まで上昇した。ただ、米金利が大きく上昇したことに加え、0.8台では達成感もあったのか急速に上げ幅を縮小する動きとなった。米金利は新型コロナウイルスのワクチンや米追加経済対策を背景に、米経済回復期待が高まり上昇している。パウエルFRB議長は先週の議会証言にて緩和継続を強調したが、その後のFED高官の発言は米金利の上昇は適切だとし、容認していると取れる発言をしている。米金利が高止まりする場合には豪ドル売りの圧力となり、豪ドルは上値の重い動きを予想する。今週は2日にRBA政策理事会が予定されている。足元の金利上昇に対して、債券購入規模を増額するとの見方もあり注目される。RBAより金利上昇に対し懸念が示される場合、豪ドル安につながるだろう。豪ドル0.8台を付け達成感も出たことから売りは出やすいと思われ、豪ドルは軟調推移を予想する。

(3)先週までの相場の推移

先週(2/22～2/26)の値動き:　（対ドル）安値　0.7693　高値　0.8007　終値　0.7708

（対円）安値　81.99　高値　84.95　終値　82.13



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。